

大平正芳生誕百年祭記念事業としての「大平正芳と日中関係」

国際シンポジウム開催挨拶

大平知範

只今ご紹介いただきました、大平正芳記念財団の大平知範でございます。

財団を代表して一言御挨拶申し上げます。

本日は、祖父大平正芳の生誕百年を記念して「大平正芳と日中関係」国際シンポジウムが貴センターと当財団との主催で開催され、御挨拶申し上げる機会を賜りましたことを 光栄に存じます。

徐一平主任教授を初め関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

祖父大平正芳は1980年に亡くなりましたが、祖父の政治家として最後の10年間は、日中の国交正常化と両国の友好関係の促進に注がれました。

そして常々「お互い隣国同士、未来に向け付き合っゆくには、かなりの努力と忍耐が双方に求められる」と申していましたが、30年近く経った今、両国の関係は多少の摩擦は別にして「合格点」で推移しており、祖父の望みに沿ったものではないかと思われます。

その祖父が、2010年3月12日に生誕百年を迎えますが、本日の国際シンポジウムの開催を誰よりも一番喜んでいるのは、祖父大平正芳であると思えます。また、孫の私が、貴センターに参りまして、年々交流を深めているのを、祖父もあの世で目を細くして喜んでいることと思えます。

この後、中国側を代表して劉徳有先生が、また日本を代表して毛里和子先生がそれぞれ講演されます。

また、当財団、運営・選定委員長の渡邊昭夫先生出席のもと「大平総理記念論文賞」の選評と表彰式行われ、→ 引き続き、DVDの放映「大平正芳に軌跡・・・生誕百年を記念して・・・」、→ そして「第五回日本語優秀論文賞」の表彰式が行われ、→ 最後に会場を移して「記念懇親会」が開催されます。

本日、一日を通し多くの皆様とお会いし、お付き合い出来ます事を嬉しく思いますとともに、改めて厚く御礼申し上げます。

なお、当シンポジウムの開催にあたりまして、北京外国語大学及び貴センターの御協力と、深いご配慮に対しまして、心から感謝を申し上げまして、私の御挨拶とさせていただきます。

どうも有難うございました。